
2021年度日本語教育センター活動報告

1. 2021年度日本語教育センター運営体制

運営会議

- センター長：丸山 千歌 (異文化コミュニケーション学部教授)
副センター長：韓 志昊 (観光学部教授)
運営委員：井川 充雄 (全学共通カリキュラム運営センターコア会議から、社会学部教授)
運営委員：杜 国慶 (国際センターから、観光学部教授)
運営委員：松田 宏一郎 (法学部教授)

実務委員会

- センター長：丸山 千歌 (異文化コミュニケーション学部教授)
副センター長：韓 志昊 (観光学部准教授)
センター員：池田 伸子 (異文化コミュニケーション学部教授)
センター員：金庭 久美子 (特任准教授)
センター員：藤田 恵 (特任准教授)
センター員：数野 恵理 (特任准教授)
センター員：小林 友美 (教育講師)
センター員：任 ジェヒ (教育講師)
センター員：小松 満帆 (教育講師)
センター員：鹿目 葉子 (教育講師)
事務局：吉田 友子
事務局：鈴木 洋介
事務局：澤野 礼奈
事務局：宮本 杏子

兼任講師

- 井上 玲子 富倉 教子
神元 愛美子 長島 明子
川端 芳子 長谷川 孝子

小森 由里	東平 福美
斉藤 紀子	開 めぐみ
佐々木 藍子	平山 紫帆
沢野 美由紀	三浦 綾乃
高嶋 幸太	森井 あずさ
武田 聡子	山内 薫
谷 啓子	

2. 活動報告

日本語教育センターホームページにて3月末公開予定

<https://cjle.rikkyo.ac.jp/reports/default.aspx>

目次（予定）

1. 各科目についての報告
2. 2021年度 Placement Test 実施報告
3. 2021年度日本語相談室実施報告
4. 2021年度立教大学漢字検定試験実施報告
5. 2021年度日本語自主学習用図書貸し出し実施報告
6. 留学生による日本語スピーチコンテスト実施報告
7. 日本語教育センターシンポジウム実施報告
8. 日本語教育センターニュースレター発行報告
9. 短期日本語プログラム報告
10. センター員活動報告
11. 2021年度FD記録

日本語教育センターセンター員 教育研究業績一覧

池田伸子

著書

1. 『新界標日本語 第3冊 教師用指導書』（編集委員として参加）、復旦大学出版会（印刷中）

研究論文

1. 「「協創力」を育むことを目的としたロールプレイング・ゲームの授業活用可能性」、『日本語・日本語教育』第5号、立教大学日本語教育センター、2022年、39-50頁

講演

1. 「すべての人が“自分らしく”いられる社会にするために ダイバーシティからインクルージョンへ」、2021年度ふれあい塾、宇都宮市東生涯学習センター、2021年10月19日

研究助成

1. 2021.4～至現在 科学研究費助成金（基盤研究（C））「大学日本語教育質保証を担う評価人材育成：発展的評価を実践できる日本語教師への研修」（研究分担者）（課題番号：21K0063）

丸山千歌

著書

1. 『日本語教育実践入門：日本語の分析から教材・授業の創造まで』（近藤安月子との共著）、東京大学出版会、2021年
2. 『新界標日本語 第3冊 教師用指導書』（楊敬・徐敏民・藤田恵と共同主編）、復旦大学出版会（印刷中）

研究論文

1. 「多声モデル生成法としての複線径路等至性アプローチのための試論」（小澤伊久美との共同執筆）、『日本語・日本語教育』第5号、立教大学日本語教育センター、2022年、51-68頁

報告

1. 「オンラインによる短期日本語プログラムの授業実践」（藤田恵、金庭久美子との共同執筆）、『日本語・日本語教育』第5号、立教大学日本語教育センター、2022年、109-124頁

研究発表

1. 「次世代に対応可能な日本語教育のための発展的評価の活用——正規学部留学生向けアカデミック・ジャパニーズのクラスを対象に——」（数野恵理、金庭久美子、藤田恵、嶋原

耕一、小林友美、池田伸子との共同ポスター発表)、第30回小出記念日本語教育研究会、オンライン開催、2021年6月26日

2. 「多声モデル生成法としての複線径路等至性アプローチ」(小澤伊久美とのショートプレゼンテーション/研究発表)、母語・継承語・バイリンガル教育2021年度研究大会、オンライン開催、2021年8月7日
3. 「縦断的調査におけるTEM的飽和に関する試論」(小澤伊久美・サトウタツヤとの共同によるポスター発表)2021年度立命館大学人間科学研究所年次総会ポスターセッション、2022年2月13日

その他

1. 「日本語教育とわたし」、第2回校友会レディスクラブオンライン公開講座、2021年11月20日

研究助成

1. 2020.4～至現在 科学研究費助成金(基盤研究(C))「日本とつながって生きる」選択から見える日本語教育の新時代」(研究代表者)(課題番号:20K00707)
2. 2021.4～至現在 科学研究費助成金(基盤研究(C))「大学日本語教育質保証を担う評価人材育成:発展的評価を実践できる日本語教師への研修」(研究分担者)(課題番号:21K0063)

数野恵理

著書

1. 『新界標日本語 第3冊 教師用指導書』(編集委員として参加)、復旦大学出版社(印刷中)

論文

1. 「日本人大学生が書いたナラティブ作文の評価——日本語ナラティブ作文用の評価項目を用いて——」(坪根由香里・トンプソン美恵子・影山陽子との共同執筆)、『日本語/日本語教育研究』12、日本語/日本語教育研究会、ココ出版、2021年、229-244頁
2. 「日本語母語話者教師が考えるナラティブ作文のGood Writing——評価の際に重視された項目より——」(影山陽子・トンプソン美恵子・坪根由香里との共同執筆)、『日本語・日本語教育』第5号、立教大学日本語教育センター、2022年、1-22頁

報告

1. 「プロンプトによるナラティブ作文の評価の違い——高得点を得た『よいナラティブ』の提示——」(影山陽子・坪根由香里・トンプソン美恵子との共同執筆)、『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』13、アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会、2021年、27-35頁

研究発表

1. 「次世代に対応可能な日本語教育のための発展的評価の活用 ― 正規学部留学生向けアカデミック・ジャパニーズのクラスを対象に ―」（金庭久美子・藤田恵・嶋原耕一・小林友美・丸山千歌・池田伸子との共同ポスター発表）、第30回小出記念日本語教育研究会、オンライン開催、2021年6月26日
2. 「日本語学習者が書いたナラティブ作文における good writing ― 日本語母語話者教師は評価時にどのような項目を重視するのか ―」（影山陽子・坪根由香里・トンプソン美恵子との共同発表）、第57回日本語教育方法研究会、オンライン開催、2021年9月12日
3. 「日本語母語話者教師・非母語話者教師はナラティブ作文評価でどのような項目を重視するか ― 重視度調査と上位作文に対するコメントの分析を通して ―」（トンプソン美恵子・影山陽子・坪根由香里との共同発表）、第55回アカデミック・ジャパニーズ・グループ定例研究会、オンライン開催、2022年2月20日
4. 「オンライン授業におけるグループ発表の試み ― 発展的評価による科目改善と再評価 ―」第58回日本語教育方法研究会、オンライン開催、2022年3月15日（予定）
5. 「東南アジアの大学で教える日本語教師によるナラティブ作文の評価 ― 総合評価と項目別評価の結果から ―」（坪根由香里、影山陽子、トンプソン美恵子との共同発表）タイ国日本語教育研究会第34回年次セミナー、オンライン開催、2022年3月19日（予定）

講演

1. 「International Webinar Series JF 日本語スタンダード A2～B1 の学生のための読解指導 第1回読み物を選ぼう・使おう」、2021年度インドネシア中学校・高校日本語教師会、オンライン開催、2021年7月24日

研究助成

1. 2019.4～至現在 科学研究費助成金（基盤研究（B））「日本語ライティングにおけるナラティブの Good Writing 探究と評価法の開発」（研究分担者）（課題番号：19H01274）

金庭久美子

著書

1. 『リアルな会話で学ぶにほんご初中級リスニング Alive』（山森理恵・奥野由紀子・鎌田修との共著）、ジャパントイムズ、2021年
2. 『新界標日本語 第3冊 教師用指導書』（編集委員として参加）、復旦大学出版社（印刷中）

研究論文

1. 「ドイツにおける日本語学習者のメール文における配慮表現の使用状況 ― 問い合わせメールと断りのメールを用いて ―」、『日本語・日本語教育』第5号、立教大学日本語教

育センター、2022年、23-38頁

2. 「発信メールと返信メールに現れる「なら」の使用について」(金蘭美との共著)、『日本語教育方法研究会誌』Vol.28-1、日本語教育方法研究会、2021年、22-23頁
3. 「ドイツ語母語話者のメール文における配慮表現の使用」、『ヨーロッパ日本語教育報告・発表論文集 第24回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム』、ヨーロッパ日本語教師会、2022年(査読有・印刷中)

報告

1. 「オンラインによる短期日本語プログラムの授業実践」(藤田恵、丸山千歌との共同執筆)、『日本語・日本語教育』第5号、立教大学日本語教育センター、2022年、109-124頁

研究発表

1. 「24種類のメール文タスクから見る「テシマウ」の使用状況」(金蘭美との共同発表)、口頭発表、韓国日本語教育學會 2021年度第39回国際学術大会、オンライン開催、2021年4月24日
2. 「次世代に対応可能な日本語教育のための発展的評価の活用——正規学部留学生向けアカデミック・ジャパニーズのクラスを対象に——」(数野恵理・藤田恵・嶋原耕一・小林友美・丸山千歌・池田伸子との共同ポスター発表)、第30回小出記念日本語教育研究会、オンライン開催、2021年6月26日
3. 「ドイツ語母語話者のメール文における配慮表現の使用」、ポスター発表、第24回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム(16th EAJIS International Conference 2020)、オンライン開催、2021年8月27日
4. 「メール文に見られる用件の切り出し方——タスクの種類および読み手配慮に焦点を当てて——」(金蘭美、金玄珠との共同発表)、口頭発表、韓国日本語教育學會 2021年度第40回国際学術大会、オンライン開催、2021年12月4日
5. 「文脈の文型化と文型の再文脈化——自然発話(雑談)の教材化を例に——」(鎌田修、山森理恵、奥野由紀子との共同発表)、口頭発表、日本語プロフィシエンシー研究学会 2021年度第1回研究例会、オンライン開催、2022年1月8日

講演

1. 「International Webinar Series JF 日本語スタンダード A2～B1の学生のための読解指導 第2回オンラインツールを知ろう・活用しよう」、2021年度インドネシア中学校・高校日本語教師会、オンライン開催、2021年9月25日

研究助成

1. 2019.4～至現在 科学研究費助成金(基盤研究(C))「初級から学べる段階別学習型作文支援システムの構築」(研究分担者)(課題番号:19K00734)

藤田恵

著書

1. 『新界標日本語 第3冊 教師用指導書』（楊敬・徐敏民・丸山千歌と共同主編）、復旦大学出版社（印刷中）

報告

1. 「オンラインによる短期日本語プログラムの授業実践」（金庭久美子、丸山千歌との共同執筆）、『日本語・日本語教育』第5号、立教大学日本語教育センター、2022年、109-124頁

発表

1. 「次世代に対応可能な日本語教育のための発展的評価の活用——正規学部留学生向けアカデミック・ジャパニーズのクラスを対象に——」（数野恵理、金庭久美子、嶋原耕一、小林友美、丸山千歌、池田伸子との共同ポスター発表）、第30回小出記念日本語教育研究会、オンライン開催、2021年6月26日
2. 「視覚に障害がある日本語学習者にとっての「手書き」の意義——学習者自身が感じる困難さと書字の関わりに関する一考察——」（河住有希子、中西溪との共同発表）、第58回日本語教育方法研究会、オンライン開催、2022年3月15日（予定）

講演

1. 「言語教育におけるインクルージョンを考える」研究交流会、オンライン開催、2021年8月25日
<http://incl4lang.html.xdomain.jp/meeting.html#d2021-08-25>
2. 「International Webinar Series JF 日本語スタンダード A2～B1 の学生のための読解指導 第3回活動を考えよう・やってみよう」、2021年度インドネシア中学校・高校日本語教師会、オンライン開催、2021年11月20日

研究助成

1. 2021.4～至現在 科学研究費助成金（基盤研究（C））「グローバル化時代における視覚特別支援教育と日本語教育の有機的連携に向けた基盤構築」（研究分担者）（課題番号：21K02727）

任ジェヒ

研究論文

1. 「韓国語を母語とする日本語学習者の読解における推測ストラテジー」（野田尚史との共同執筆）、『日本語学研究』第70巻、韓国日本語学会、2021年、39-57頁
2. 「コミュニケーション行為の成立を可能にする【前提】とは何か」、『待遇コミュニケーション研究』19号、待遇コミュニケーション学会、2022年（印刷中）

報告

1. 「日研の専門家養成教育は実践にどう活かされたのか——留学生を対象とした日本語教育の実践例から——（【特集】早稲田の日本語教育専門家養成教育を振り返る）」、『早稲田日本語教育学』第31号、早稲田大学大学院日本語教育研究科、2021年、21-26頁
2. 「日本語学習者は雑談をどのように理解するか——話題を理解する過程に注目して——」、『日本語・日本語教育』第5号、立教大学日本語教育センター、2022年、153-169頁

研究発表

1. 「待遇コミュニケーションにおける理論的枠組みを考える」（アドゥアヨム・アヘゴ希佳子、李址遠、徳間晴美、蒲谷宏との共同発表）、待遇コミュニケーション学会2021年秋季大会（第36回）、オンライン開催、2021年10月23日
2. 「韓国語を母語とする日本語学習者の理解過程からみる母語話者の日本語文法」、NINJAL（国語研究所）共同研究発表会・シンポジウム2021年度「日本語文法研究のフロンティア——母語話者の日本語と学習者の日本語の対照研究を中心に——」、オンライン開催、2022年2月26日（予定）

研究助成

1. 2020.4～至現在 科学研究費助成金（若手研究）「日本語学習者の多様な言語生活に対応したバリエーション教育開発のための基礎研究」（研究代表者）（課題番号：20K13092）

その他

1. ウェブ版日本語読解教材「日本語を読みたい!」「通商白書」シリーズ
「経常収支や貿易収支の推移を読みとる」「経常収支や貿易収支の推移の原因を読みとる」
<https://www.nihongo-tai.com/japanese/>（2022年3月末公開予定）

鹿目葉子

研究論文

1. 「ライティング活動における協働学習に対する学習者の意識——タイの大学で学ぶ日本語学習者を対象とした調査から——」（横田恭一、清水慶子との共同執筆）、『Japanese Studies Journal』第38号、タマサート大学、2021年、131-145頁
2. 「中東地域の日本語学習者および留学生に向けた授業の活動案——社会人基礎力の「チームで働く力」に焦点をあてて——」（清水慶子との共同執筆）、『一般財団法人昭和経済研究所アラブ調査室9月号』、一般財団法人昭和経済研究所アラブ調査室、2021年、https://arabstudies.jp/pdf/2021-08_04.pdf
3. 「タイの潜在的日本語人材の育成に資する大学語学センターへの一提案——中等教育と高等教育の橋渡しとして——」（横田恭一、大橋真由美との共同執筆）、『日本語・日本語教育』第5号、立教大学日本語教育センター、2022年、89-108頁

報告

1. 「ビジネス日本語授業における SECI モデルの実践報告——タイ人学生の協働による学びから——」(山本由美子、榎原実香、大橋真由美、ムニンタラウオン・シリワンとの共同執筆)、『タイ日研究ネットワーク Thailand 研究論集 2022 年』、タイ日研究ネットワーク Thailand、2022 年 (印刷中)

研究発表

1. 「タイ・日本における対話を重視したビジネス日本語教育の実践：日本の企業を知る活動を通して」(榎原実香、山本由美子、大橋真由美、ムニンタラウオン・シリワンとの共同発表) 2021 年度タイ国日本語教育研究会 第 34 回年次セミナー、オンライン開催、2022 年 3 月 19 日 (発表予定)

小林友美**著書**

1. 『新界標日本語 第 3 冊 教師用指導書』(編集委員として参加)、復旦大学出版社 (印刷中)

研究発表

1. 「次世代に対応可能な日本語教育のための発展的評価の活用——正規学部留学生向けアカデミック・ジャパニーズのクラスを対象に——」(数野恵理・金庭久美子・藤田恵・嶋原耕一・丸山千歌・池田伸子との共同ポスター発表)、第 30 回小出記念日本語教育研究会、オンライン開催、2021 年 6 月 26 日

研究助成

1. 2020.4～至現在 科学研究費助成金(若手研究)「相互作用を意識した会話教育のための教材開発」(研究代表者)(課題番号：20K13089)

小松満帆**報告**

1. 「フランス高等教育機関での演劇アトリエの試み——インクルーシブ活動の視点から——」、『日本語・日本語教育』第 5 号、立教大学日本語教育センター、2022 年、125-138 頁

研究発表

1. 「初中級学習者の漢字習得における書き練習の効果」(西村遥香、竹村亜紀子、ゴウ・アモリ、宮内優、中村弥生との共同口頭発表)、第 17 回フランス日本語教師会シンポジウム、オンライン開催、2021 年 6 月 12 日